

作業療法士が実感している 訪問リハビリテーションの介入効果

(医)らぽーる新潟 ゆきよしクリニック
作業療法士 大越 満

はじめに

2004年11月の高知大会にて、
作業療法士（以下、OT）による
訪問リハビリテーション（以下、訪問リハ）の
実情として、

- 1) 介入内容
 - 2) 知識・技術不足の内容
 - 3) 職域を越えている内容
- 以上を報告した。

研究目的

OTが実感している訪問リハ
の介入効果を明らかにし、
今後の方向性を探る

研究方法

調査対象

- 1.訪問看護ステーションに勤務している OT148名
(日本作業療法士協会に登録している全員)
 - 2.訪問看護ステーションに所属し, 日本作業療法学会
(2001~2003)にて演題発表をしている OT5名
- 合計153名

調査方法

郵送による質問紙調査

(2003年8月25日, 回収期間は約2ヶ月)

- 1.OTの属性
- 2.訪問リハの実践内容
- 3.実感している訪問リハの介入効果

結果

結果1

アンケート回収率 37.9%(153名中58名)

回答者の属性

性別 女性 40名(69%) 男性 18名(31%)

年齢 20代 24名(41.4%) 30代 27名(46.6%)

作業療法経験年数 2~4年 14名(24%)

5~7年 15名(27%)

8~10年 10名(17%)

11~20年 14名(24%)

訪問リハ経験年数 2~4年 38名(65%)

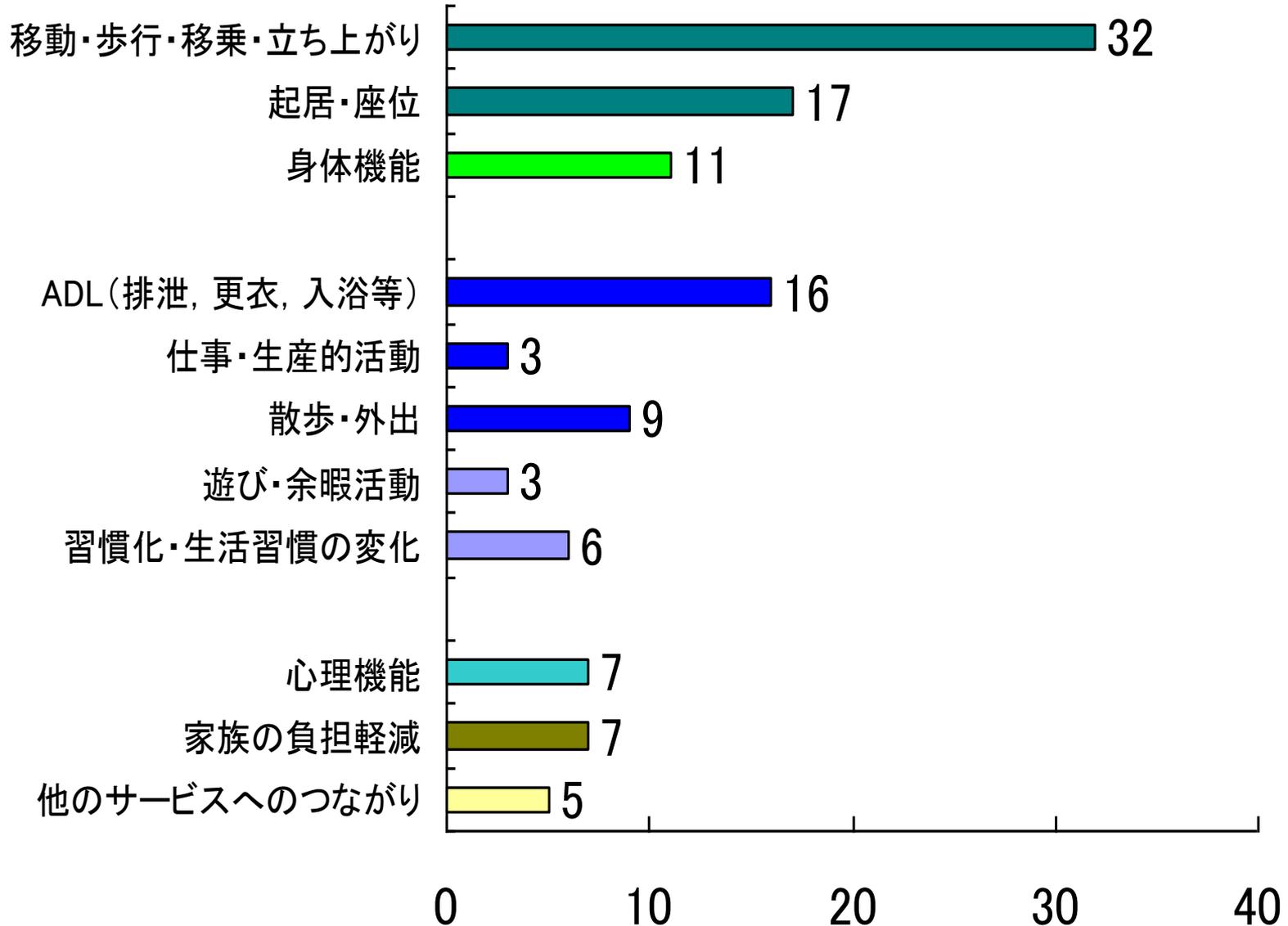
担当クライアント数 19名以上担当30名(51.7%)

結果2 回答者が効果を実感していた クライアントの紹介

- 回答者：43名
- 性別：男性28名(65.1%)，
女性15名(34.9%)
- 年齢：70歳代以降(60.5%)
- 疾患名：脳血管障害28名(52.8%)
- 発症(受傷)からの期間：3～6ヶ月,11名(25.6%)
- 家族状況：2人暮らしが20名(46.5%)

結果3 回答者43名が実感していた クライアントへの介入効果

複数回答:合計116



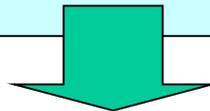
考察

考察1-1

訪問リハを利用するクライアントの要介護度は高い傾向にある

表 介護保険受給者と介護度との関係 (厚生労働省, 2002 単位: 千人)

	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
居宅サービス受給者合計	240.3	560.3	335.4	197.7	151.1	135.7
(割合)	(14.8%)	(34.6%)	(20.7%)	(12.2%)	(9.3%)	(8.4%)
訪問リハ受給者	0.2	2.3	3.2	3.0	3.5	5.1
(割合)	(1.1%)	(13.2%)	(18.4%)	(17.2%)	(20.1%)	(29.3%)



寝たきり状態から脱却させることが第一の介入目標になりやすい

考察1-2 “作業”とは

(Law M,1998)

セルフケア
(生きる)

レジャー
(楽しむ)

生産活動
(はたらく)

移動
歩行
移乗
立ち上がり
起居
座位
ADL

OTは、“作業”の文脈を大切にし、クライアントのセルフケアのみならず、“はたらく”“楽しむ”作業にも効果をもたらす働きかけをしていくことで、OTらしい訪問リハ実践になるものと考えられる。

考察1-3 訪問リハにおけるOTの今後の方向性

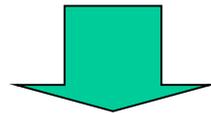
Aさん: 男性. CVA. 通院や買い物をしたい希望がある

歩くことが出来ない→OTが歩行に介入

主目標: 家族の手を借りず, 自由に外出が出来る人生を歩む

副目標: 玄関まで歩く～歩いて屋外に出る～車を運転する

現在: 往復80kmある病院まで車で通院が出来るようになった



クライアントの作業を可能にし, 目標が達成されるよう, 訪問リハを実践し, 多くのクライアントに介入効果をもたらしていくことが重要

今後の課題

- ・ 訪問看護ステーションに勤務するOTを対象
- ・ 介入効果を実感していたのはOT
- ・ クライエントが実感する訪問リハの効果
→ 今後、調査、研究していく必要



私が訪問している, 硬貨を集めるのが趣味の97歳女性

ご清聴ありがとうございました